

# 中期目標の達成状況に関する評価結果

大阪大学

平成21年3月

独立行政法人大学評価・学位授与機構



## I 教育に関する目標

### 1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

### 2. 各中期目標の達成状況

#### (1) 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

#### (2) 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

#### (3) 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）の達成状況について、2項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

#### (4) 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標

(5項目)のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

### 3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期計画で「大学院における教育プログラムの高度・多様化を図る」としていることについて、多数の教育プログラムが「魅力ある大学院教育」イニシアティブ等に採択され、海外研修や競争的資金獲得型研究プロジェクト等が実施されており、「魅力ある大学院教育」イニシアティブの事後評価においても十分な評価を得ていること、また、21世紀COEプログラム等に関連した科目を開講することにより、これら優れたプログラムに大学院生が参加できる機会を与えられていることは、様々な教育プログラムが高度・多様化し実質的に機能している点で、優れていると判断される。
- 中期計画で「大学院での教育研究を活かした社会人教育と生涯学習支援を行う」としていることについて、中之島センターで、高度職業人講座及び社会連携講座等を大阪大学エクステンションとして実施しており、平成17年度223名、平成18年度214名、平成19年度337名と、毎年多数の修了者を輩出していることは、多くの学外者に大阪大学の教育研究の成果を還元している点で、優れていると判断される。
- 中期計画で「情報機器を活用して多角的に授業内容を理解させる」としていることについて、遠隔講義のためのスペース・コラボレーション・システム(SCS)の実用化や、WebCT VISTA等の情報機器の整備・発展により、教員がオフィスアワー以外でも学生の質問等に対応できる体制となったことは、教員、学生間のコミュニケーションが活発化し、学生の授業理解度の向上が図られた点で、優れていると判断される。
- 中期計画で「弾力的で幅広いカリキュラム編成を行う」としていることについて、21世紀COEプログラム及びグローバルCOEプログラムによる教育プログラムや各種教育改革プログラムを実施し、それぞれコースワークの体系化やプロジェクト・ベースド・ラーニング(PBL)方式による実践的科目の導入を進め、また、学際的な教育プログラムも次第に増加していることは、履修プログラムの多様化を実現している点で、優れていると判断される。
- 中期計画で「TAの教育的機能を活用する」としていることについて、ティーチング・アシスタント(TA)の受入れ範囲を大学院博士前期課程にまで広げ、また、業務範囲も拡大したことによって、TA数の充実を図っていることは、教育的機能の実質的な向上がみられる点で、優れていると判断される。
- 中期計画で「インターネット利用環境を整備充実させる」としていることについて、平成19年度の大阪外国語大学との統合に対応し、キャンパスネットワークODINS5期整備や、全学無線LANシステムを設置したことによって、各部局での遠隔教育、国際遠隔講義等に積極的に活用され、大阪大学学務情報システムKOANの利用増加にも貢献していることは、優れていると判断される。
- 中期計画で「留学生等を対象に、生活や学習に必要な情報を提供する」としていることについて、新たに受け入れる外国人留学生へのワンストップ・サービスとして、国際交流推進本部において「宿泊施設手配・斡旋支援」、「在留資格認定証明書交付申

請」、「各種情報提供」の3事項に係る業務を一元的に対応することにより、円滑な留学生支援を行っていることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 学部教育に関して、各部局との密接な連携の下、大学教育実践センターが中心となり、平成19年度より共通教育のカリキュラム改革を行い、主題別教育科目を「基礎教養科目」、「現代教養科目」、「先端教養科目」、「国際教養科目」に改編し、特に「国際教養科目」は言語習得を主目的としながら、国際時代に対応しうる会話、教養、マナー等の能力と知性の涵養を図ることも目的としていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画で「高度専門職業人を養成するためのカリキュラム、プログラムを構築する」としていることについて、3年間で工学修士と経営学修士(MBA)の2つを取得するMOTコースの提供や、平成19年度より人口問題・医療・食糧問題等の国際社会が直面する課題を総合的に分析するサステナビリティ学教育プログラムの実施等、独創的思考で高度専門職業人養成を行っていることは、特色ある取組であると判断される。
- 入学者選抜に関して、それぞれの学部・研究科において、留学生特別選抜、飛び級選抜、秋期入学選抜等の多様な入試を行っており、理学部においては、筆記試験を課さずに、国際物理オリンピックへの参加を基本的な条件とした「国際物理オリンピック入試」を実施するなど、入学者選抜の多様化を図っていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画で「研究科間の連携を強化する」としていることについて、部局横断型の学際融合教育プログラムとして、ナノ高度学際教育研究訓練プログラム、臨床医工学融合研究教育センターの教育プログラム、金融と保険に関する文理融合型教育プログラム、サステナビリティ学教育プログラムの4つのプログラムが行われていることは、学生の学際性、応用力、実践力の向上を図っている点で、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画で「教育方法の改善を図る」としていることについて、大学教育実践センターがサイバーメディアセンターの協力の下、ウェブサイトを用いた授業支援に関する研究や実験、WebCTのシンポジウムや講習会を実施しており、大阪大学学務情報システム KOAN や WebCT 等の導入による教育方法の情報化に役割を果たしていることは、特色ある取組であると判断される。

## II 研究に関する目標

### 1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「研究に関する目標」に係る中期目標(2項目)のうち、1項目が「良

好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

## 2. 各中期目標の達成状況

### (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況が良好である

[判断理由] 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のうち、2項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

### (2) 研究実施体制等の整備に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況がおおむね良好である

[判断理由] 「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（7項目）のうち、2項目が「良好」、5項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

## 3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期目標で「世界最高水準の成果を目指す」及び「重点的に取り組む領域を推進する」としていることについて、21世紀COEプログラムに採択された研究は、中間・事後評価で高い評価を得ており、グローバルCOEプログラムにも引き続き採択されたこと、また、世界トップレベル国際研究拠点形成推進プログラム、科学技術振興調整費戦略的研究拠点育成プログラム等に採択されている優れた研究が活発に実施されていることは、新たな研究分野が開拓されるとともに、高い水準の成果も得られている点で、優れていると判断される。
- 中期計画で「学外の先端的研究機関との交流と研究に密着した教育体制を確立する」としていることについて、部局横断型としてナノサイエンス・ナノテクノロジー教育研究訓練プログラムを立ち上げ、企業との連携によって、様々な教育プログラムを実践するなど、研究内容に沿った学生教育、社会人教育が高い水準で行われており、また、臨床医工学融合研究教育センターでは、教育プログラムを実施するとともに、米国・国立衛生研究所との研究拠点形成が推進されていることは、優れていると判断される。
- 中期計画で「研究設備機器等の効率的な整備を行う」としていることについて、学内研究教育機器の整備や有効利用（リユースの促進）を行うため、科学教育機器リノ

ベーションセンターが設置され、機器の修理や共同利用システムを構築していることは、学内での共同利用が促進され、分野横断的なプロジェクトの推進に寄与している点で、優れていると判断される。

- 中期計画で「生命科学・生命工学及びナノサイエンス・ナノテクノロジーを対象とする教育研究組織の連携推進やプロジェクト研究等に取り組む」としていることについて、研究推進室の下にナノサイエンス・ナノテクノロジー研究推進機構や生命科学・生命工学研究推進機構等を設置することで部局間連携研究・教育体制が強化され、また、研究推進室の経費支援や研究支援組織の強化により、全学的見地から活動を推進することで、Cell、Nature 等のトップジャーナルに報告される研究成果につながるなど、高い水準の成果を上げていることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画で「研究を推進する全学的組織を構築する」としていることについて、研究推進室の下、大学全体からなる研究支援組織を設置して、境界領域や複合領域の研究等が促進されており、また、平成 19 年度にはグローバルコラボレーションセンターを設置し、国際協力について、各部局の連携を強化させ、新しい研究・教育の実現を図っていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画で「重点的に研究費を配分する」及び「機動的に対応できる支援体制を整備する」としていることについて、研究推進室に設置される 5 つのワーキンググループ（生命科学・生命工学、ナノサイエンス・ナノテクノロジー、理工学、文系、文理融合）において、新たな研究の展開を検討する活動資金の配分やそれぞれの研究戦略に対応した国際シンポジウムやセミナー、ワークショップ等が積極的に実施されていることは、特色ある取組であると判断される。

### III その他の目標

#### (1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

##### 1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

##### 2. 各中期目標の達成状況

###### (1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である



[判断理由]「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のうち、2項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

### 3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期計画で「産学官連携組織を整備する」及び「産学官連携ネットワークを構築する」としていることについて、スーパー産学官連携機構を設置し、窓口及び知的財産取扱の一元化を図っており、また、機構の下に先端科学イノベーションセンターと知的財産本部を配置し、学内の知的財産と研究リソースを結集させている。この一元化の取組が、4年間で延べ2,450件の共同研究、2,181件の受託研究につながり、有効に機能していることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「海外でのリエゾンオフィスの開設、海外研究組織との定期的な学術交流集会の開催などを推進する」について、海外での定期的な学術交流推進のために、教職員が駐在する海外拠点（サンフランシスコ、グローニンゲン、バンコク）として教育研究センターを開設し、リエゾンオフィス機能を持たせ、教育研究に関する現地活動を行っていることは、安定的な教育研究の国際連携を進展させている点で、特色ある取組であると判断される。